

## 学 位 論 文 要 旨

研究題目

Impact of the Coronavirus Disease 2019 Pandemic on Medical Practices in Awaji Island

(新型コロナウイルス感染症パンデミックによる淡路島の医療現場への影響 )

耳鼻咽喉科・頭頸部外科学 (指導教授又は医学研究科紹介教授 都築 建三 )

氏 名 大森良彦

**目的：** 新型コロナウイルス感染症 (COVID-19) の症例が中国で確認されて以来、COVID-19 は世界的な脅威となり、医療現場に重大な影響を与えている。本研究は、COVID-19 パンデミックにより兵庫県の離島である淡路島に位置する感染指定病院である兵庫県立淡路医療センター (以下、当院) の医療現場がどのような影響を受けたかを評価し、今後未知の新興感染症が流行した場合にどのように対応すべきかを考察することを目的とした。

**方法：** 対象期間をパンデミック前 (2016 年 1 月から 2019 年 12 月) とパンデミック中 (2020 年 1 月から 2022 年 12 月) とした。COVID-19 に関する疫学的特徴 (日本全体、兵庫県全域、淡路島で比較した COVID-19 感染率の推移、当院における一般外来、救急外来、入院患者数の変化) に関する調査を実施した。常勤医師 118 名の勤務実態 (超過勤務時間、有給休暇取得日数の変化) を調査し、アンケート調査 (勤務時間、睡眠時間、COVID-19 関連の患者からの質問) を実施した。

**結果：** 淡路島の COVID-19 感染率のピークは、日本全体や兵庫県全域のものと同期していたが、感染率は低かった。パンデミック中の当院における一般外来、救急外来患者数、入院患者数はいずれも、パンデミック前と比較して減少した。パンデミック中の常勤医師の勤務実態は、超過勤務時間の減少、有給休暇取得日数の増加を認めた。アンケートの結果では、パンデミック中の勤務時間、睡眠時間に変化がなかったと回答するものが多かった。患者からの質問はワクチン接種に関する質問が多くを占めた。

**考察：** 淡路島が日本全体や兵庫県全域に比べ感染率は低かった背景として、パンデミックへの社会的規制による淡路島への人口流入の減少、高齢化率の高い淡路島民の外出抑制が考えられた。当院の一般外来、救急外来患者数が共に減少した主な理由として、患者の受診控えが考えられた。入院患者数が減少した理由は、外来患者数の減少と入院診療制限などが考えられた。また、COVID-19 入院患者増加に伴う専用隔離病棟の設置は一般病床・集中治療室をひっ迫し、他疾患患者の入院診療が制限された。将来未知の新興感染症に備え、パンデミックの影響を受けにくい医療体制を構築する必要がある。一方、医師へのアンケート調査結果から、一般診療の制限に伴い、超過勤務時間の減少と有給休暇取得日数の増加につながったと考えられた。本研究は単独施設研究であること、他職種の業務量の変化などは評価できなかった。今後はこの課題を解決すべく研究が、将来へのパンデミック発生時の対策の教訓になると考えられた。